

生活クラブ 2030 行動宣言

東京版 25年度 実績報告レポート

SDGsの理念に通じ、 かつ留まらない活動を——。

2015年「持続可能な開発目標（SDGs）」が国連で合意され、貧困や飢餓、気候危機など人類全体の課題を解決するため、17の世界的目標が掲げられました。

生活クラブではこれまでも「食・エネルギー・福祉」の自給、生産から消費・廃棄に至るすべての過程で「安全・健康・環境」を最大限に追求し、先駆的な活動を進めてきました。それらをふまえ、2020年に『第一次 生活クラブ2030行動宣言』としてまとめ、2022年にはさらに先駆的な取り組みを実行すべく『生活クラブ2030行動宣言』を決定しました。

生活クラブ東京でも「東京版2030行動宣言」の目標達成に向けて活動し、2025年度は以下の実績となりました。日々の選択や一歩踏み出すことで達成に近づきます。

生活クラブに関わるみんなで、サステイナブルな未来をつくっていきましょう。

取 組 み

実 績

1

食料主権の考え方を基軸とした、国内生産の追求と、公正な調達を行ないます。



1-1 組合員の食べる力を強化することで、都市近郊農業の生産と持続性を支えます。

1-2 援農や農業体験などを通して産地との交流を深めることにより、ローカルSDGsを推進します。

2

素材本来の味、食材にまつわる知恵や文化を大切に、健康で豊かな食の実現をはかります。

学校給食に化学調味料や食品添加物に頼らない質の良い調味料の使用を働きかけます。

3

地球の生態系を維持するため、海や陸の環境保全と気候変動対策に取り組めます。



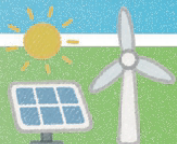
3-1 生産・流通・消費・廃棄での環境配慮のため、東京独自品やデポーでの容器包装のプラスチックの使用を削減します。

3-2 日本の林業促進と森林環境保護のため、住宅事業や独自品で東京産木材の活用を推進します。

3-3 温室効果ガス削減のため、配送センターの車両のEV化をすすめます。

4

社会の存続をおびやかす危機への対策をすすめ、暮らしと未来を守ります。



5

原発のない社会をめざし、再生可能エネルギーの生産と普及に取り組めます。

大地震など災害時への対策をすすめ、組合員への供給責任を果たすと共に、被災時にはセンター・デポーを拠点にし、まちコミュニティと連携し地域に貢献します。

原発の問題と合わせ、再生可能エネルギーの意義をひろめていくことにより、原発を再稼働させない活動を推進します。

1-1 生活クラブ提携都市農家の会「農」に4名の会員加入がありました。北東京では北東京小さな農園の野菜セット、多摩きたでは7月に枝豆とナス、11月に武蔵村山グループのセット野菜の取組み、多摩南では6月に木成りトマト、1月にほうれん草を取り組みました。

1-2 のらっこ3園と北東京小さな農園で収穫体験企画を実施しました。北東京小さな農園と生活クラブ農園・あきる野では、加工用トマトの試験栽培を行い、収穫には組合員を呼び込み新たな参加につながりました。

27自治体に消費材が供給されています。学校牛乳配送事業準備会を立ち上げ、多摩統合センターから多摩市（一部）の学校牛乳配達が決定しました。

3-1 石けん類の量り売りデポー石神井、デポー町田で展開し、石神井では重量前年比107.3%、利用人数前年比101.9%、町田は重量前年比114.2%、利用人数前年比は121.4%と大きく伸長しました。

3-2 東京多摩産の木材を使用した取り組みを継続しました。また杉、檜、漆喰、い草などの国産材を使用した住まいづくりをすすめました。

3-3 配送車両として初めてEVTラックを導入しました。導入した車両は、運転席や荷台は既存トラックを活用し、エンジンやモーターなどを置き換えたEVコンバージョン車両です。

オフサイトPPA導入にむけて各施設の調査と申請を行いました。保存水・保存パンを更新し各施設に再配備しました。

再エネ省エネフェアを実行委員会形式で各ブロックで1回ずつ開催しました。太陽光パネルリサイクル義務化に関する署名活動を行い、10,194筆を集めました。世田谷区と環境・エネルギー分野において相互に連携・協働し持続可能な地域づくりに寄与する協定を締結しました。

1-1

多摩きた
畝高篤子さん



多摩きた生活クラブの地場野菜生産者、荒幡農園で援農を始めて10年以上になります。農業、化学肥料を使わず独自のぼかし肥料※を使っている畑の土はふかふかです。もう一つ、生活クラブ農園・あきる野で月1回程度の援農と農あるまちづくり委員として運営にもかかわっています。委員には農福連携にかかわりたいの思いもあり参加しました。多様な働き方ができる畑仕事は心もおどやかです。多摩きた地場野菜のファンを増やしていきたいです。

※有機質肥料を土と混ぜて発酵させた肥料



荒幡農園での援農

3-3

生活クラブグループ初となるEVコンバージョントラックが葛飾センターに導入されました。EVコンバージョントラックとは、現在配達に使用しているトラックからエンジンなどを取り外し、EVモーターやバッテリーを搭載した車両です。運転席や荷台はそのまま活用し、まだ使える資源を大切にすることで新車製造時の資源消費を抑え、EV車による環境負荷の抑制に加え、廃棄物の削減にもつながります。「生活クラブ2030行動宣言」に基づき、これからも温室効果ガス排出量ゼロに向けた車両のEV化を推進していきます。



EVTラック出発式

6

誰もが個性を活かしながら、安心して生活を営める地域と社会をつくります。

7

貧困と孤立を見過ごさず、自立に向けて寄り添い、支え合い、多様な居場所と働き方をつくります。



8

非戦と共生の立場を貫き、平和で公正な社会をめざします。



9

ジェンダー平等と多様な働き方を実現します。



10

他団体と連携し、新たな環境保全活動に取り組みます。

11

情報開示と自主管理を基本とし、自ら考え、決め、実行します。

取 組 み

地域でたすけあえるコミュニティを増やし、地域での自発的で多様な活動を広げます。

7-1 障がいやその他さまざまな理由で就労が困難になっている人が地域で働き続けられる場づくりとして、生活クラブのセンターやデポでの就労の受け入れをすすめます。

7-2 組合員の空き家・空き室、住宅確保要配慮者の住まいの確保など、居住支援の取り組みをすすめます。

7-3 エコロファンドを活用したこども基金を拡充させ、子どもや子育て家庭の支援に取り組みます。

8-1 草の根市民基金ぐらんの助成団体など社会的課題に取り組む団体との交流を深め、公正な社会づくりに寄与します。

8-2 非戦と平和のための学びの場を作り、平和で公正な社会をめざす活動をしします。

協同組合型の事業体であるワーカーズなどとの連携を強め、各地域におけるワーカーズ運動を推進します。

シャボン玉月間の取り組みなど、行政と連携し、環境保全活動に取り組みます。

消費材Step Up点検の意義の理解をすすめ、消費材の利用推進、その後の運動につながる活動を展開します。

実 績

各まち1コミュニティを新規に作る目標で活動しました。期首**543**から**9**増やし実績は**552**コミュニティでした。

7-1 東村山センターで**生活困窮者就労訓練事業**の登録が完了しました。調布センターで1名受け入れをして、半年ほど**就労訓練**に取り組みました。

7-2 **居住支援&空き家空き室活用チラン**を**2**回配布し、相談が6件寄せられました。**支援付き住宅事業**を広く周知するために、**学習会**を開催しました。

7-3 エコロこども基金は、地域のこども支援16団体+ワーカーズによる食支援7団体**計23団体**に**助成**しました。

8-1 2025年度登録寄付実績は登録人数1,588人、登録口数4,364口、登録寄付金額は521万7,100円。単発寄付は1,753人より2,517口で125万8,500円。寄付金付き消費材は延べ1,642人が取り組み171,200円。これらの寄付から**都内7団体**と**アジア2団体**に対して**400万円**の**助成**をしました。

8-2 各ブロック単協で**平和学習会**、東京では**平和フォーラム**を開催しました。寄付金付きのパレスチナ産オリーブオイルのスポット取り組みを行い、寄付金**282,975円**を現地の生産者に届けました。東友会（東京の被爆者団体）を通じて、被爆体験を語ってくださる方を招きお話を聞く会を**開催**しました。

生活クラブと「共に働くワーカーズ」の共同事業として世田谷・東村山・日野で**家事支援事業を開始**、10月より対象エリアをまち小平・まち東久留米・まち多摩・まち八王子南に**拡大**しました。生活クラブ社会的連帯経済コネクト機構のWEBサイトを新たに立ち上げ、コネクト機構の活動および各団体の**情報**を**発信**することができました。

52自治体からメッセージを取得しました。実際に首長と対面できた自治体は**15**で、**3自治体**（狛江市、三鷹市、多摩市）から後援を取得しました。

23区南2回、北東京1回、多摩きた1回の**実施**がありました。多摩南では生活クラブ連合会企画にオブザーバー参加をしました。

5

23区南
西山恵美さん



組合員、でんきスタッフ、事務局との連携が実り、23区南の2025年度生活クラブでんき契約目標108件を超過達成しました。夏休みに「再エネフェス」を開催し、子どもも大人も再生可能エネルギーのしくみや現状について体験を通して楽しく学びました。持続可能な社会や地球の未来を考える機会として、「2030地球再生のビジョン」の上映会を行いました。また、遊休農地に営農型太陽光発電所を設立し経営している（株）さがみこファーム見学ツアーを実施し、地域の理解やつながりを作るまでのお話や今後の展望を伺い、参加組合員が自分の言葉で生活クラブでんきの魅力を語ることをめざしました。原発や有限資源に頼らない、再生可能エネルギー中心の生活クラブでんきに切り替えることが、個人ができる環境問題解決の手段だと考えています。



23区南生活クラブ 再エネフェス

9

家事支援事業（愛称：サボすけ）は組合員宅の石けん清掃を中心とした事業です。高齢者、障がい者、若者、子育て中など働きづらさを抱える人と共に働くワーカーズ・コレクティブの3団体との共同事業として取り組み、組合員の家事支援だけでなく働く人の社会参加の場づくりも目的としています。サボすけは組合員が地域で暮らし続けるための生活サポートの考えから始まりました。地域の中で私らしく暮らすための取組みを今後も続けていきます。



家事支援の様子

「生活クラブ2030行動宣言」について /
詳しくはこちら



生きるものすべての命を守るために



加瀬 和美さん
生活クラブ東京 理事長

全国の生活クラブ共通の指針として「生活クラブ2030行動宣言」が採択されてから6年がたちました。生活クラブ東京では、この「行動宣言」を活動や事業に落とし込んで具体的に目標をたて、少しずつ実践を重ねています。それは、9万3,000人の組合員一人ひとりの暮らしの選択の集積ともいえます。あなたの選択がどんな社会の実現に結びついているのか、ぜひ行動宣言に照らしてみてください。予約して食べる、Rびんの消費材を使って返す、石けんを使う、土を耕し作物を

つくる、援農に行く、再生可能エネルギーを選ぶ、ちょっとした困りごとをたすけあいで解決する、地域に居場所をつくる、ともに働くなど、一人ひとりの小さな選択は、集まることで強くなかな力となります。ささやかだけれど、押し寄せる大きな波への抵抗となり得るものです。生活クラブの活動や事業は、生きるものすべての命を守るためのものでありたいと思います。ちょっとだけ立ち止まって、あなたにできることを考えて行動してみませんか。